

情報収集・分析能力

向上研修

【企画書】



株式会社 日本マネジメント協会(中部)

〒464-0075 名古屋市千種区内山3-10-17 今池セントラルビル4F

TEL 052-745-6010 FAX 052-732-0010

MAIL jmi.145@aioros.ocn.ne.jp URL <https://www.jmi-t.co.jp>

1. 研修の目的

- ❖ 行政・自治体、ならびに民間企業団体において、実務者および管理職にとっての必要な「情報収集・分析力」とは、難しい統計学的なデータ分析ではなく、施策の推進根拠や企画立案の信用性、問題解決の論拠等として提示できる、データの基礎的な加工力と言えます。
- ❖ 日々の業務においては、発生する課題、もしくは仮説や主観的な結論を、数字(データ)を下地にし、いかに客観的に「筋の通った情報・まとまりある証拠」にしていくか、が大切です。
- ❖ また、その情報を「いかにわかりやすい形で処理し、公表するか」にも焦点をあて学習することで、実際の業務にしっかり反映できるスキルやセンスを養う機会とします。

2. 研修内容の特色

日常的技術としての「情報収集力」「分析力」とは、

「主観を客観に変えるための事実の収集力」と「証拠の提示力」です。

→ 証拠の提示力とは、報告書やプレゼン資料などに根拠として盛り込めるよう「わかりやすい切り口で見せる」技術です。

〈本研修では〉

- ① まず「そもそもなんのために収集・分析し、どんな解釈へつなげたいのか」をロジカルに意識することからスタート。
- ② そのためには「どんなデータを集め、どう加工すれば、その結論へたどり着けるか」に着目。
- ③ 大きな課題を適切なサイズに分解したり、データ採取の断面を変えて最適に表現する手法を学ぶ。

この流れに沿って行い、結果として「発信力・報告内容の説得力が高まり」「より論理的な提案が出来る」よう導きます。

《この研修における主な枠組み》

ロジカルシンキング
(基本) + データ分析

1. 課題に対し有力な仮説を立て、“扱うべき数字”(データ)を選定する。

・ **「そもそも、なにを実証したいかを整理・確認する」**

⇒ 自分が考えていることを「確かにそういう解釈ができそうだ」と言わせるために、どの数字を集めるか決める。

2. 収集する・分解する・検証するための効果的方法を身に付ける。

・ **「想定したこと(仮説)は、根拠を得るまでは思い付きのレベル」**

⇒ 目的達成に必要なデータをロジックに拾い上げる(ツリーで思考・フェーズ確定)。

・ **「差が出るフェース(断面)を使用し、範囲・時系列・単位の視点で明確に」**

⇒ 相違点が最もクリアに浮かび上がる断面 & 着目の視点で、数値の意味を読み解く。

3. 立証データを、相手側の理解が最も得られる形で加工し表現する。

・ **「的を射た“相関関係”の紐解きから「要因」を特定し「ストーリー化」する**

⇒ 関係性は、バイヤス・思い込みが影響していないかに十分注意して解釈をする。

・ **「表現者のための分析結果」ではNG。「受け手への提示・提案あつての分析結果」**

⇒ データを受け取る側に一目瞭然な提示を。思考プロセスも示し理解と評価を得る。

仮説実証



問題解決



報告提案

3-2. 研修内容(午後)

時間	カリキュラム・小項目
13:00	<p>3. 仮説は型(枠組み)やツリーでしっかり要素を分解 【対話式講義、個人ワーク・事例研究】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 要素の分解とモデル化がデータ抽出の5つのカギ<ol style="list-style-type: none">① 言語表現の段階からフレーム化する② 課題を分解するには、ツリー思考③ 変動するもの、変動しないものを見分ける④ 差の出やすいところ分析可能なフェーズ(軸・軸面)を選ぶ⑤ 代表的なフェーズを使って考える 3つの定番カテゴリー「地理・時間・属性(〜ごと)」2) 優先順位の付け方とは<ol style="list-style-type: none">① モレなくダブリなく(MECE・4Pで切り取る)② ペイオフマトリックスでいくつもの仮説をマッピング3) データのばらつきに着目しよう ~“平均”を出して安心しない~<ol style="list-style-type: none">① 比較・共通項・変化の点・平均からのかい離② 一定区間(スナップショット)と時系列(トレンド)③ 2軸でポジショニング確認 <hr/> <p>4. 相関関数を用いて、データの相互作用の有無を見る 【対話式講義、個人ワーク・事例研究】</p> <ol style="list-style-type: none">1) セルを用いた相関関数の出し方と読み方2) 2軸の視点で関係性を分析する3) 疑似相関(直接的な関係性薄)と第三の要因4) 時間軸をずらしても、因果関係が大きく崩れないかのチェック <hr/> <p>5. 立証データは「伝えて」初めて生かされる 【対話式講義・個人ワーク・グループワーク・発表】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 「結果」と「報告」は別物と知る2) 受け手に合わせた表現手法3) 見せる範囲・内容は「受け手」目線でシンプルに4) そもそも目的~提案・報告のゴールまで一貫性を ~言語化→数学で分解→モデル化・図式化→再度言語化→達成~5) 本日のまとめ
16:30	